

Xバンドレーダの導入について

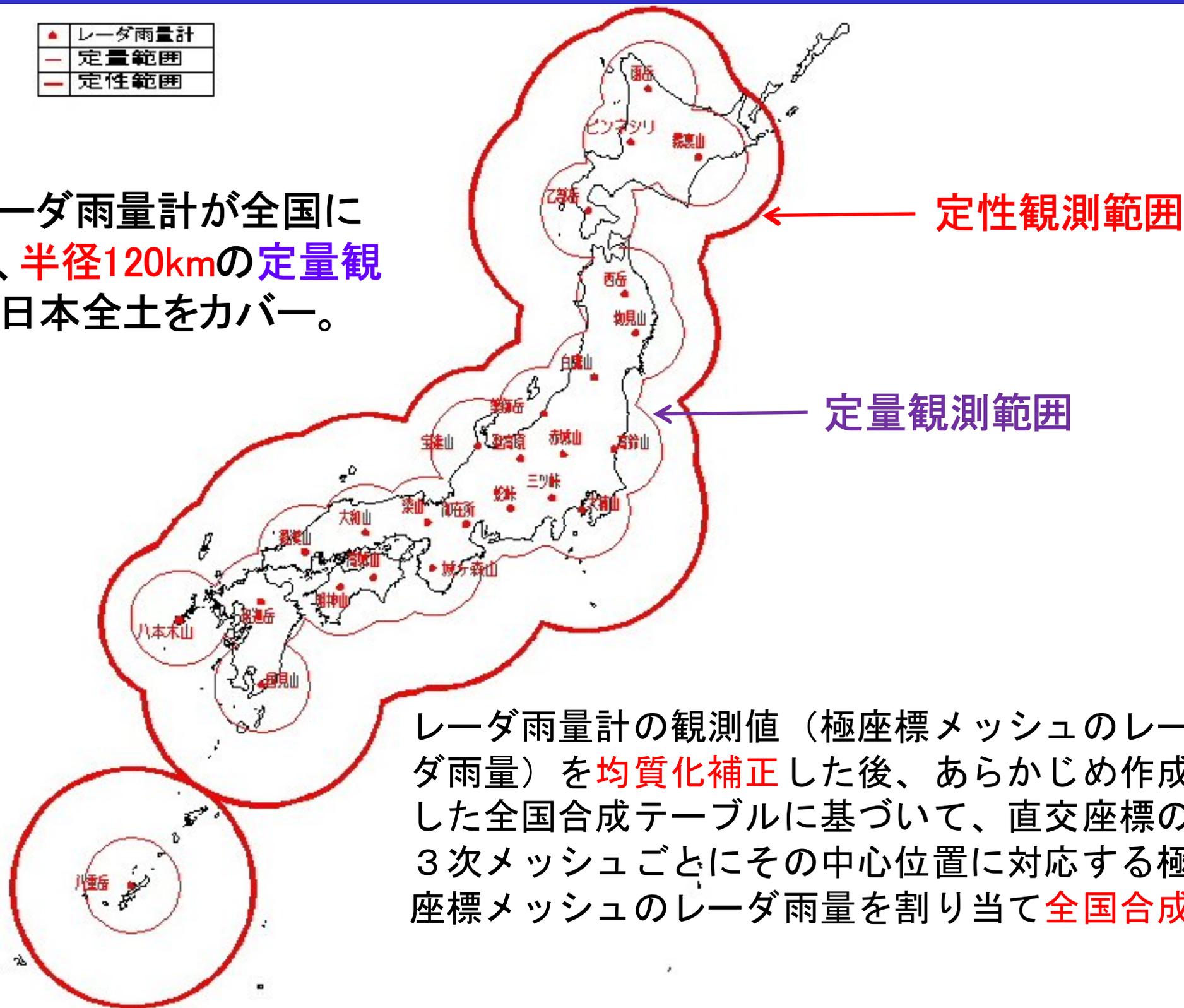
平成20年12月19日

河川局

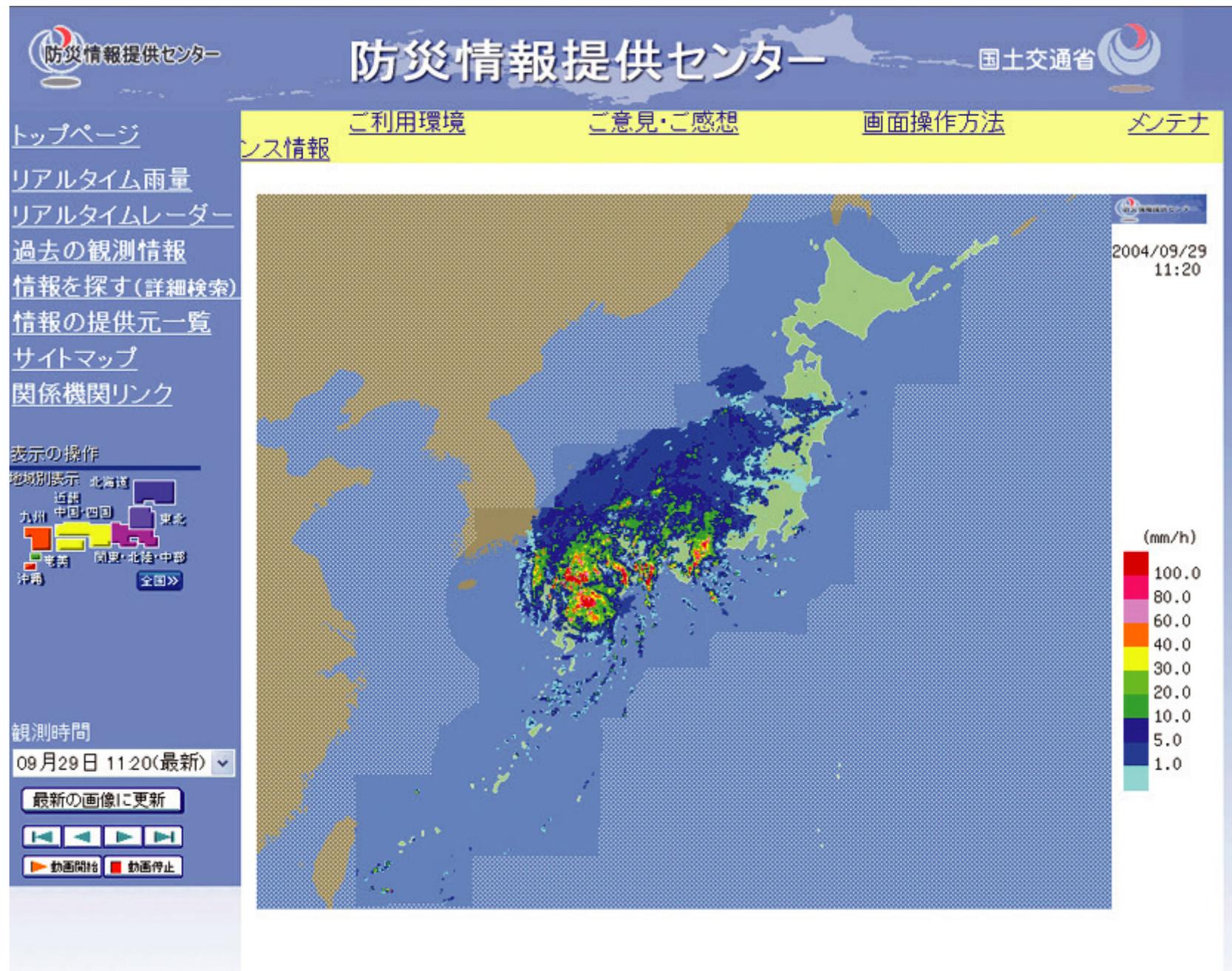
Cバンドレーダ(国交省)の設置状況

▲	レーダ雨量計
—	定量範囲
—	定性範囲

26基のレーダ雨量計が全国に設置され、半径120kmの定量観測範囲で日本全土をカバー。



全国合成レーダ雨量の提供



合成レーダ雨量は、国土交通省の統一河川情報システムや防災情報提供センターの**防災情報**のひとつとして配信。

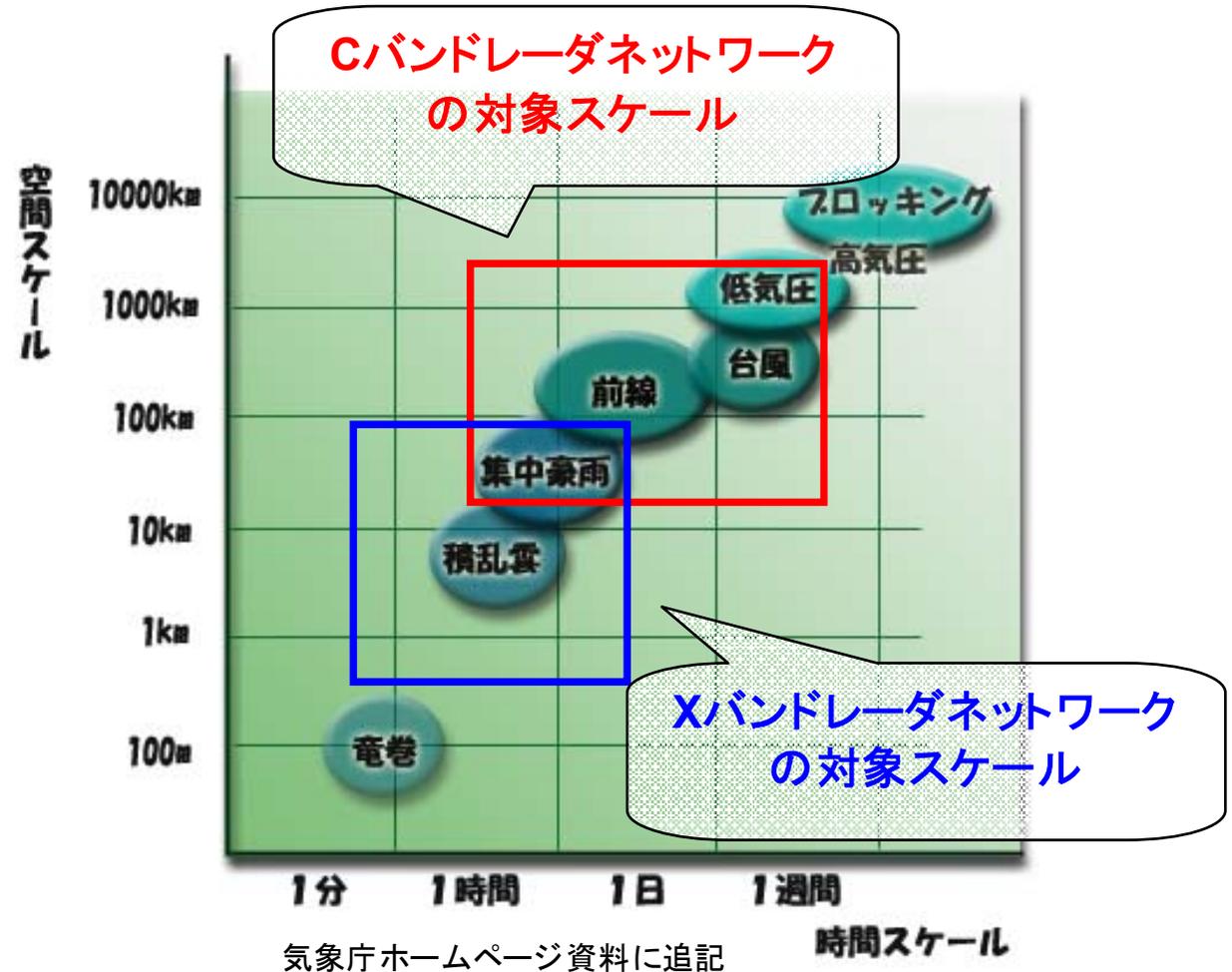
新たな監視の必要性

Cバンドレーダの役割

台風や発達した低気圧の接近に伴う降雨を観測し、洪水や土砂災害等の監視に活用

Cバンドレーダの特徴

- ・全国を26基のレーダで網羅
→半径120kmの定量範囲
- ・観測から情報提供までに要する時間
→約10分
- ・降雨監視は反射強度のみ
→地上雨量との補正を要する
- ・低仰角を主体に観測
- ・空間分解能は約1km



時空間スケールの小さな局地的な大雨や集中豪雨に対する監視強化が必要



Xバンドレーダの導入

既存Cバンドレーダとの比較

レーダ種類	Xバンドレーダ (目標値)	国土交通省 Cバンドレーダ	気象庁 Cバンドレーダ
観測間隔	1分	5分	10分
情報発表までの タイムラグ	1~2分	5~10分	5~10分
提供するデータの 分解能	250~500m	1km	1km
二重偏波の有無	○	△ ^{*1}	×
ドップラー観測	○	△ ^{*1}	○ ^{*2}
ボリウムスキャン	○	△ ^{*1}	○

*1:一部のレーダサイトで実施

*2:一部のレーダサイトでは未実施

当面の重点観測地区

- 高度に利用され人口が集中している主要都市部
- 近年、局地的な大雨や集中豪雨により被災を受けた地域

地域	重点観測地区
近畿	大阪市、神戸市、京都市
中部	名古屋市及びその周辺都市
関東	東京23区、さいたま市、横浜市、川崎市、千葉市
北陸	金沢市周辺